

## 1年担任 長尾 彰彦 教諭 の紹介

## 子どもの「興味関心のアンテナ」を育てるということ

子どもは本来、身の回りの出来事や自然、仲間とのかかわりの中に、たくさんの「不思議」や「面白さ」を見いだす力をもっています。その小さな気づきを受け止めながら、学びへとつなげていくことは、教師にとって大切な役割の一つです。

1年担任の長尾彰彦教諭の学級では、まさに子ども一人一人がもつ「興味関心のアンテナ」が大切にされています。子どもたちのつぶやきや仕草、何気ない疑問を見逃すことなく丁寧にすくい上げ、そこから学びを広げていく姿に、日々の実践の確かさを感じています。



とりわけ印象的なのは、教師があらかじめ用意した活動に子どもを当てはめるのではなく、子どもの気づきや発見を出発点として授業が展開されている点です。子どもたちが「やってみたい」「もっと知りたい」と感じる瞬間を大切にし、その思いを仲間と共有しながら学びを深めていく過程には、これからの時代に求められる主体的な学びの姿があります。

また、長尾教諭は、子どもたちの小さな変化にも目を向け、その背景にある思いをくみ取りながら関わっています。こうした日々の積み重ねが、安心して自分を表現できる学級の雰囲気を生み出し、子どもたちの「アンテナ」をさらに豊かに広げているのだと感じます。



「興味関心のアンテナ」は、与えられるものではなく、育まれていくものです。その芽を大切にし、学びへとつなげていく長尾教諭の姿は、本校の目指す教育の一つの形を示しています。

子どもたちの可能性を信じ、その芽を伸ばしていく教育実践が肝要と考えています。